

## 教科書の特徴

教科書名：BLUE MARBLE English Communication I（104 数研 C I 715）

### ① 内容

日常的な話題・社会的な話題を英語の言語活動を通じて学習することで、的確に情報や考えを理解したり適切に表現したりするコミュニケーション能力を育成できるように留意している。

- A. 題材は学習者に親しみやすく、かつ、学習者の生きる力を育成する内容豊かなものを掲載している。
- B. 言語材料に関しては、中学校との連携を考慮して基本事項の定着を重視するとともに、段階的に学習することができるよう配慮している。
- C. 題材を学習するにあたっては、聞く・読む・話す[やり取り／発表]・書くの4技能5領域の統合的な言語活動へと展開していくことができるようにしている。
- D. 各レッスンにおいては概要や要点を捉えたり、論理展開を確認したり、様々な言語活動を通じて多面的・多角的に考察したりするなどして、同じ英文に何度も触れて学びを深めていけるようにしている。
- E. 言語活動においては、具体的で身近な使用場面を設定するなどして、学習者が積極的に授業に参加できるよう配慮している。

上述した内容・構成によって、学習者が多様な知識と教養を習得して、主体的に社会の形成に参画し、自他国の伝統・文化を尊重しつつ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが達成できる教科書となっている。

### ② 全体の構成：本資料末尾に CONTENTS を掲載。

A. 前見返し：

・CLASSROOM ENGLISH：授業中に使える英語表現の一覧。

B. 本課（Lesson 1～10）：導入→OVERVIEW→各 Part→REPRODUCTION→INTERACTION という流れで、同一の英文に何度も触れて理解を深めながら、発信活動へと展開することが可能となっている。

- 1. 導入：各課のテーマに関連した写真・資料に関する簡単な質問に答え、やりとりすることができる。「聞く」「読む」、「話す[発表]」「書く」、「話す[やりとり]」に関する、各課の目標を提示している。
- 2. OVERVIEW：全 Part の英文を掲載。英文の大意把握のため、各 Part のタイトル選択問題を掲載している。
- 3. 各 Part：Part ごとに英文を掲載。英文理解から活動へ展開することが可能となっている。
  - ・Part Question：本文の要点を問う質問を提示している。
  - ・Listening Quiz：True or False の形式で、本文の内容理解に関するリスニング問題を掲載している。
  - ・Notes：固有名詞や注意の必要な語句、Key Phrases（覚えておきたい表現）、Key Language（各課のターゲットとなる文法項目）を提示している。

- ・ LOGIC FLOW：本文の論理展開・キーワードを、空所補充形式で確認することができる。
  - ・ TASK 1：本文の内容理解を確認する英問英答の問題。生徒同士でのやりとりも可能。
  - ・ TASK 2：写真やイラストを見て、本文の内容を自分のことばで再生・表現する活動。
  - ・ Your Opinion：本文に関連したトピックについて話し合う活動。
4. REPRODUCTION：①本文の内容をまとめる、②自分のことばで発表、③自分の意見を表現、の3ステップで発信活動を行うことができる構成となっている。
5. INTERACTION：本文に関連した別素材でのリスニングを行い、意見のやり取りを行うことができる。
- C. LANGUAGE FOCUS：本課 Lesson 1～8 の後に掲載。直前のレッスンで扱った言語材料を効果的に学習することができる構成となっている。
1. Pronunciation：英語らしく発音するためのスキルを学習。
  2. Reading Strategies：英文を効果的に読むためのスキルを学習。
  3. Grammar：身近な使用場面を想定した活動を通して、文法項目を学習。
- D. Optional Lesson：
- 鑑賞を目的とした題材として「物語」と「英語の講談」を扱っている。Optional Lesson 1 はリーディング、Optional Lesson 2 はリーディング及びリスニングのレッスン。
- E. FUNCTIONS IN ACTION（後見返し）：すごろくをしながら、日常生活で使う英語の機能表現を学ぶことができるグループワーク。
- F. 二次元コード：
- 本文・新出語のリスニング、音読・発音練習、本文の読む速さの確認といったコンテンツが提供されている。

### ③ 表記・表現 及び 使用上の便宜

- A. 学習指導要領との対応が明確で、紙面から授業展開がイメージできるように配慮している。
1. 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を段階的に育成し、かつ習熟度に応じた評価がしやすいことが一目でわかるようにしている。
  2. 聞く・読む・話す[やり取り／発表]・書くの4技能5領域の活動をバランスよく扱い、かつ複数技能統合型の活動で締めくくるようにしている。活動の種類がわかりやすいように、下記のようなアイコンを付けている。
    - ・4技能5領域のいずれに該当するかを示すアイコンを、各構成要素に掲載している。
    - ・リスニング問題には「スピーカー」のアイコンを付けている。
- B. 同一の英文に何度も触れることによって読解の質を深め、論理展開の理解・活用を軸に、4技能5領域を統合した活動へ展開できるようにしている。
- C. 題材は、生徒の知的好奇心を刺激し、読後にさまざまな視点・立場からの意見を引き出す内容豊かなものを採用している。また、各課のテーマに関連したSDGs(持続可能な開発目標)のアイコンを、各課の導入頁に掲載している。
- D. 言語活動においては、具体的で身近な使用場面を設定するなどして、学習者が積極的に授業に参加できるように配慮している。

(※次ページにCONTENTSを掲載。)

◆CONTENTS

単元	題材	言語材料
CLASSROOM ENGLISH	—	—
L1 Friendships in the Digital Age	学校生活	基本的な文構造
LANGUAGE FOCUS 1	—	
L2 Expos: Past, Present, and Future	科学・社会	時制
LANGUAGE FOCUS 2	—	
L3 The Fascinating World of a Professional Storyteller	異文化理解	助動詞・態
LANGUAGE FOCUS 3	—	
L4 Changing Behavior in Unique Ways	社会・公共	不定詞・動名詞
LANGUAGE FOCUS 4	—	
L5 A Journey to Peace	教育・平和	分詞
LANGUAGE FOCUS 5	—	
L6 Humans Evolve with Measurements	歴史・文化	関係代名詞
LANGUAGE FOCUS 6	—	
L7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets	動物・科学	関係副詞
LANGUAGE FOCUS 7	—	
L8 What to Do with Too Many Tourists	環境・生活	仮定法
LANGUAGE FOCUS 8	—	
L9 Surviving in the Information Age	情報・社会	—
L10 The Spirit of <i>Zen</i> : Less Is More	日本文化	—
Optional Lesson 1 Swans Mate for Life	物語	—
Optional Lesson 2 Tracking Santa Around the World	講談	—
FUNCTIONS IN ACTION Roll the Dice!	—	—

\* 言語材料は Lesson 1～8（及び直後の LANGUAGE FOCUS）までで扱い、Lesson 9, 10 は復習的な項目を本文で扱う。